

アダムスキー氏との日々<その6>

竹島 正

コニー・グリッシュ女史 【(1)】

【解説】

今回は、コニー・グリッシュさんを紹介します。彼女は病院の看護婦をされており、現在、ミシガン州ノビに住んでおられます。彼女とは、まだ直接会ったことはありませんが、ふとしたことから数年前より文通を続けています。アダムスキーのミシガン州での協力者の一人です。本シリーズは、インタビュー記事が原則なのですが、これまで私に伝えられた手紙やテープから、実に彼女がああ「同乗記」に出てくるオーソンやラミュール、カルナに会ったことを知らせてきましたので、ここに、彼女の言葉として私に伝えられた内容を公表することにしました。

(竹島)

.....

S 地球の状況が緊迫している

アダムスキー氏は1954年デトロイトへ初めてやって来ました。五千人もの人々の前で講演するためにです、それが私が初めて氏について知った時です。氏は以後五回か六回来たと思います。しかし、その後は聴衆の数は減る一方でした。最後には、ほんの一握りの人々が興味を示しただけでした。

アダムスキー氏は六十歳代のハンサムな白髪男性でした。彼はポーランドの相当な血筋を引いていました。教育を受けた人ではありませんでしたが、彼は大変知識があり、人々に理解しやすい優しい言葉で話しかけていました。しかし、彼は実際には高度に専門的なことを理解しているようでした。彼は自身、独学で学んだと言っていました。

彼はアマチュアの写真家、天体観測家でした。反射望遠鏡を使って、彼は月面周辺の不思議な物体を撮影し始めたのです。簡単なブローニーカメラを望遠鏡に付けて撮影を開始しました。彼は近くの海軍基地へ写真を送りましたが、返事はありません。そればかりか、写真も返しては来ませんでした。アダムスキー氏は以前から、宇宙において私達が一人ではないように思っていました。彼は東洋の宗教や形而上学の教えを研究していましたが、スペースビープルからこうした教えによる自分の背景を変えて、人々に他の惑星の人々が肉体上に存在することと彼等の今回の来訪の目的を伝えるように言われたのです。オーソンはこの惑星の状況が緊迫していることを強調しました、彼等が何年もの間、私達より遥かに進歩した測定装置によって、この惑星を観察していたのです。

そしてこれらの変化がこの惑星上に住む人々にどのような変化をもたらすことになるのでしょうか。或る地域から多人数の人々を避難させる手段を地球人は持っていません。ですから、政府や学会が当てにならない以上、人々が直接その情報を知らされることが急がれていたのです。

原子爆弾を用いた私達の実験の影響は外宇宙まで広がって行き、宇宙船が飛行する流れに影響を与えています。一方で宇宙の法則は惑星内部の事柄を干渉することを禁じていますが、彼等は地球人のこうした試みを打ち消すだけの知識とパワーを持っています。オーソンは随分前に私達が地球が反転する段階に来ていると述べています。地球の科学者も今日ではそうなるかも知れないと同意する意見です。

♫私はオーソンやラミュールに会った

しかし、小型のスカウトシップが全世界で目撃され、写真も取られているにも関わらず、アダムスキーがスペースビーブルとの体験を話したときからアダムスキーの信用を失わせようとする者が時としていたものです。しかし、私について言えば、私自身アダムスキーが話したことの確かさについて証拠を持っています。何故なら、私はオーソンやラミュールその他の人々に会ったことがあるからです。

スペースビーブルは地上にやって来てからというもの、私達の間で静かに生活しており、陰から私達を手助けするために働いています。地球人に病気をもたらすストレスを作り出すような戦争や貨幣制度の無い社会から来た彼等は外見上、我々の中の健康人より美しい顔付きをしているだけの違いでしか有りません。彼等は故郷の惑星にいる間は私達のような病気にかかることはありません。



GAの活動を援助したクリッシュ夫妻

んが、この惑星に住んでいる間に彼等も影響を受けて病気になることがあります。彼等のうち、それが可能な者は時々静養しに帰還しますし、ある者は短い期間大気圏内に滞在し、またある者はそれが余りにも苦痛なため、地球を離れなければならなくなります。

他の惑星の人々は明るく、楽しい人々ですし、地球にいるときでもその明朗さを保とうと努力しています。彼等は私達の様々な問題に心を痛めますが、それで自分たちの生きる姿勢に影響を与えることが無いように努力しています。アダムスキーが言ったように、彼等は四六時中顔をしかめているようなことはなく、彼等の喜びは生活の中から確立された信仰の体系から湧き出るのであります。一方、この地上ではそれは説教として言われているに過ぎません。

1958年の6月、この地方の円盤グループは宇宙講演会の開催を決定しました。アダムスキーが主賓の講演者でした。講演の後、五十人を越える人々が私の家にアダムスキーと個人的に話をするために集まっていました。日曜日には私達は円盤グループだけで借り切っていたダウントアウンのカクテルラウンジで食事をしました。その会合で、アダムスキーは皆に彼が最初の本の中で述べたオーソンの靴の足跡を解説した日本の誰かから送られてきたという或るテープを聞かせました。アダムスキーは内容を通訳しようとしていました。そして次に日本からの音楽に移りました。それは全く感動的であったことを覚えています。

私は早めに帰ることにしていましたので、その場を離れようとした時この地方の円盤グループの私の友達の一人在私の手を取り、私に会いたがっている人がいると言って私をバーの方へ連れて行きました。それは背の高い色黒の青年でしたが、しばらく話をしているうちにこの人がアダムスキーが本の中で述べたラミュールであるというひらめきがあり、私ははっとしたのです。

私はあたりを見回しました。するとバーの中にはこの地方の円盤グループのメンバーとは思えない多くの人々がいたのです。彼等は皆朗らかで、楽しげな様子であり、互いに話をしてしている様子でした。私はアダムスキーの方へ目をやりますと、彼はその一団を神経質そうに見守っていました。

§隣に座っていたのはカルナだった

私達は約二時間程、話をしましたが、別にメッセージを受けるようなことはなく、友達のように互いに興味のある多くのことについて話し合っただけです。ただ、私が驚いたのは彼が実によく私のことを知っていたことです。後でアダムスキーがその会合には本の中に出てくるオーソンや他の人々がいたと言っていたことを知りました。しかし、彼は私が誰に会ったかについては確証を与えませんでしたし、また、そうする必要も無かったのでしょうか。私の隣には金色の髪をした非常に美しい女性が座っていましたが、それがカルナであることが分かりました。

ここで私達が覚えていなければならないのはスペースビーブルがここに住む場合、彼等は注目されないように私達と似た生活をしなければならぬということです。私達が彼等の精神的な高い波動に自分自身を同調させることができ

ない限り、彼等は秘密を漏らすことはありません。私達が彼等を他の人に言いつけるようなことをしないと証明されるまではです。

アダムスキーは自分自身、煙草を吸いましたし、ウォッカを飲み、大衆から彼に惜しみ無く向けられた注目を好みました。或る人は彼はスペースビープルが他の人に示すどのような関心に対して嫉妬さえしていたようだと言っています。しかし、彼の唯一の使命は彼のコンタクトの物語を大衆に知らせることであつたのかも知れません、その後は他の者が引き継がねばならないのでしょうか、恐らく彼はそのことを知っていて、それを好ましくは思っていなかったのでしょうか。彼はこの全てがどうなるかを見てみたいので、いつも死ぬのは一番最後でありたいと言っていたものです。

【あとがき】

今回のコニー・グリッシュさんはアダムスキー氏がデトロイトをはじめ、ミシガン州を訪れた時、いつも氏の現地における講演会の準備に携わっていた一人です。人が変わればまたアダムスキーに対する見方も若干変わることはやむを得ないでしょう。唯、注目すべきはアダムスキーが実に、一面では嫉妬と見られるほどにスペースビープルを見守っていたということ、そして、60才を過ぎたアダムスキーを取り囲むようにして若々しく、快活な彼等との交流が日常的に行われていたのだということです。また、たとえ円盤グループの人々の中、あるいは個人的にどのように親しい間柄であっても、これらの人々についての秘密はアダムスキーは漏らさなかつたことも、大切なポイントとなるに違いありません。

私達はともすれば、宇宙船を目撃したり、宇宙人とコンタクトしたいと願うものですが、実際には彼等と交流するためには、こうした秘密を守ることや、彼等を地上の災いから守る態度が要求されるのです。それは惑星の問題はその惑星の住民が自ら解決すべきという原則の下、援助は限られた形態で行われていることによります。しかし、言うなれば天国の惑星から来た彼等が、日常は地上のどこかに身分を隠して働きながら、アダムスキーの講演会には必ず付き添って応援していたことを考えれば、彼等をアダムスキーがそれ程にかばっていた状況が理解できるに違いありません。

(※23ページよりつづく)

そしてそれは、決して失つてはいない……ということに気が付き、自分から、また一つのエゴが去って行くすがすがしさを感じるものだ。こんなことを何度も繰り返しながら、エゴと意識のコントロールについて、いや……というほど体験する時、この地球上でなすべきことをしている自分に気付くだろう……

地球上では、立派な地球人になれば、それでいい……くじけることはない、地球は太陽系一番の厳しい所なんだ。

「プレア」……美しい楽園、ここは遠い星から来た、惑星人の最高の集いの場なのであった……。そして、今もそうであるとしても不思議ではない……

(完)